

No title available

Patent number: JP54099241U

Publication date: 1979-07-13

Inventor:

Applicant:

Classification:

- **international:** *B60H1/00; B60H3/00; B60N2/44; B60N2/48;
F24F13/06; F24F13/068; B60H1/00; B60H3/00;
B60N2/44; B60N2/48; F24F13/06; (IPC1-7): B60H3/00;
B60N1/00; F24F13/06*

- **european:**

Application number: JP19770174627U 19771225

Priority number(s): JP19770174627U 19771225

[Report a data error here](#)

Abstract not available for JP54099241U

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑫公開実用新案公報 (U)

昭54—99241

⑬Int. Cl.²
 B 60 H 3/00
 F 24 F 13/06 //

識別記号 ⑭日本分類
 80 K 4
 90 A 123
 80 B 6

⑮内整理番号 ⑯公開 昭和54年(1979)7月13日
 6968—3L
 6968—3L
 7438—3B
 番査請求 未請求

(全 1 頁)

⑰自動車のクッションにおける涼風、温風を出
す背もたれ

三重県北牟婁郡海山町船津1531
の4

⑱実 願 昭52—174627
 ⑲出 願 昭52(1977)12月25日
 ⑳考 案 者 高橋三晴

㉑出 願 人 高橋三晴
 三重県北牟婁郡海山町船津1531
の4
 ㉒代 理 人 弁理士 今村幸雄

㉓実用新案登録請求の範囲

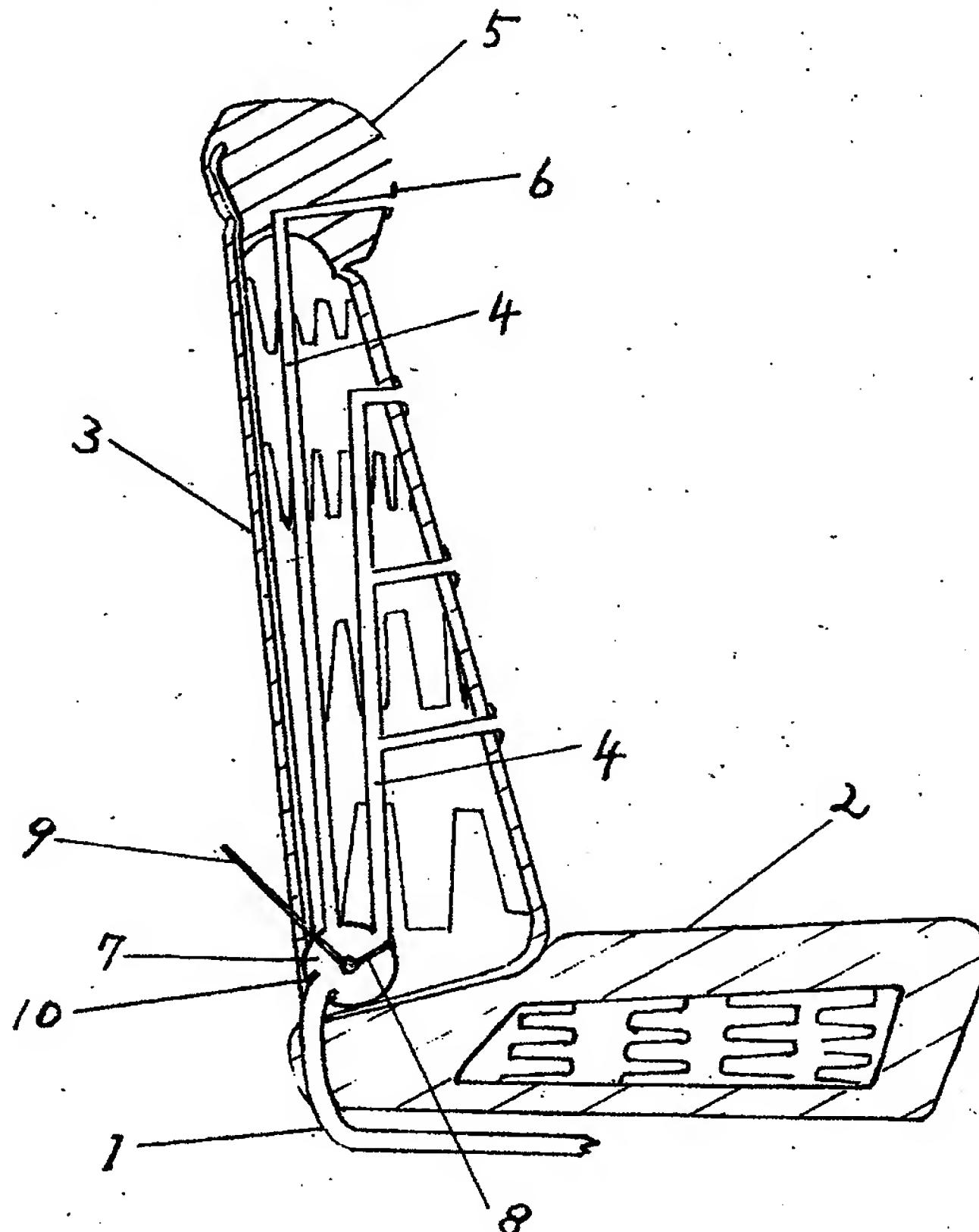
運転手席下方のガイドチューブ1を折曲せしめ
座席シートを通貫せしめたる後、背もたれ3の下
部において二本のチューブ4に分岐せしめて背も
たれ中に立て、二本の中、一方は背もたれの上部
から運転手の背筋へかけて更らに二本乃至三本に
再分岐せじめて切曲し背もたれの前面に開口せし
めてノズルとし、他の方はヘッドレストの内部
まで達せしめたる後、前面に開口せしめてノズル
とし、ノズルの開口部分にはいずれも扁平な縁部

を有せしめるものとし、ガイドチューブ1とそれ
より二本に分岐せるチューブ4との連結部に切換
レバー7を装着したる、自動車のクッションにお
ける涼風、温風を吹きつける背もたれ。

㉔図面の簡単な説明

図面は本考案の側面中央縦断面を示すものであ
る。

1 ……ガイドチューブ、4 ……ガイドチューブ
より分岐せられた二本のチューブ、7 ……切換レ
バー。





(3,000円)

実用新案登録署

昭和52年12月25日

特許庁長官 館 谷 鍾 二 殿

1、考案の名称

自動車のクツジョンにおける涼風、渦風を出す物もたれ

2、考 実 者

実用新案登録出願人と同じ

3、実用新案登録出願人

住 所 三重県北牟婁郡海山町新津1531の4

氏 名 高橋 三 晴

4、代 理 人 郵便番号 515

住 所 三重県松阪市野町1383 電 270598 - 2-2520

氏 名 6544 弁理士 今 村 幸 雄

5、添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (2) 図面 1通
- (3) 特許料本 1通
- (4) 委任状 1通

52 174627 /

52 174627 /

明細書

1、考案の名

自動車のクッションにおける涼風、涼風を吹きつける背もたれ。

2、実用新案登録請求の範囲

運転手席下方のガイドチューブ1を折曲せしめ座席シートを通させしめたるや、背もたれ3の下部において二本のチューブ4に分岐せしめて背もたれ中に立て、二本の中、一方は背もたれの上部から運転手の背筋へかけて並らに二本乃至三本に再分岐せしめて切曲し背もたれの中央に開口せしめてノズルとし、他の一方はヘッドレストの内端まで達せしめたる後、前面に開口せしめてノズルとし、ノズルの開口部分にはいずれも水平な空間を有せしめるものとし、ガイドチューブ1とそれより二本に分岐せるチューブ4との連絡管に切換レバー7を装着したる、自動車のクッションにおける涼風、涼風を吹きつける背もたれ。

3、考案の詳細な説明

自動車の運転中、運転手席の前方より前傾

或は涼風を受ける装置は一概に備へられて居る。然しながら、運転中の疲労を回復し、或は睡魔を吹退しその他不快感を洋からを無くし爽快ならしむるには、むしろ歩行より、特に首筋、後頭部等所的に涼風なり涼風たりを、直接に床じて吹きつけるのが効果的である。本考案は、かかる吹きつけを可能ならしめるクッションの背もたれにかかるものである。

本考案の構成は一般的に使用せられて居る運転手前面の送風装置を利用するものであつて、涼風用として強制ベンチレーターのホース、涼風又は涼風用としてけカーモーターのホースに運転手席の下方で接続せしめたる本考案のガイドチューブ1を側面に示す如く上方に折曲せしめ、座席シート2を通過せしめたる後、背もたれ3の下部において二本のチューブに分岐せしめて背もたれ中に立て、その中一方は背もたれの上部即ち運転手の首筋に相当する高さから背筋へかけて更に二本乃至三本に再分岐せしめて折曲し、背もたれの前面に開口せしめてノズルとし、他の一方は身

のヘッドレスト5の内部まで達せしめたる後、運転手の後頭部に対応する位置においてその前面に開口せしめてノズルとする。ノズルはその開口部分より吹き出し口の周囲に扁平なる端部6を有せしめ、これによりチューブが背もたれの内部に密着するのを防ぐものとする。

ガイドチューブ1と、上記の二本のチューブ4との連結部に、切換レバー7を装着し、掌の方のチューブへ送風するようバルブの切換を可能ならしめる。切換レバー7は側面に示す通り、バルブ8、ハンドル9、バルブストップ10をもつて構成する。

本考案は、一般に自動車に備へられて居る送風機械を利用するものであるから実際の為の費用の僅少で足ることと共に取付作業も極めて容易である。一般的の送風機械によつて運転手席全体の温度的条件を良好ならしむることは出来ても、その結果取つて睡眠を飛ぶ場合のあることも亦少しとしない。本考案によつて、前方から最も最も有効な部分へ局部的に吹きつけすると、睡眠を撃退し精神

感を取り除く効果は格段に美しいものがある。その他、不愉快な汗むらを無くして爽快な運転の継続^{可能}ならしめる効果も美しい。これ等はすべて、身体の局所的をあんま、マッサージ等が特効を示すのと同様であつて、局所的を吹きつけによつて得られる効果である。

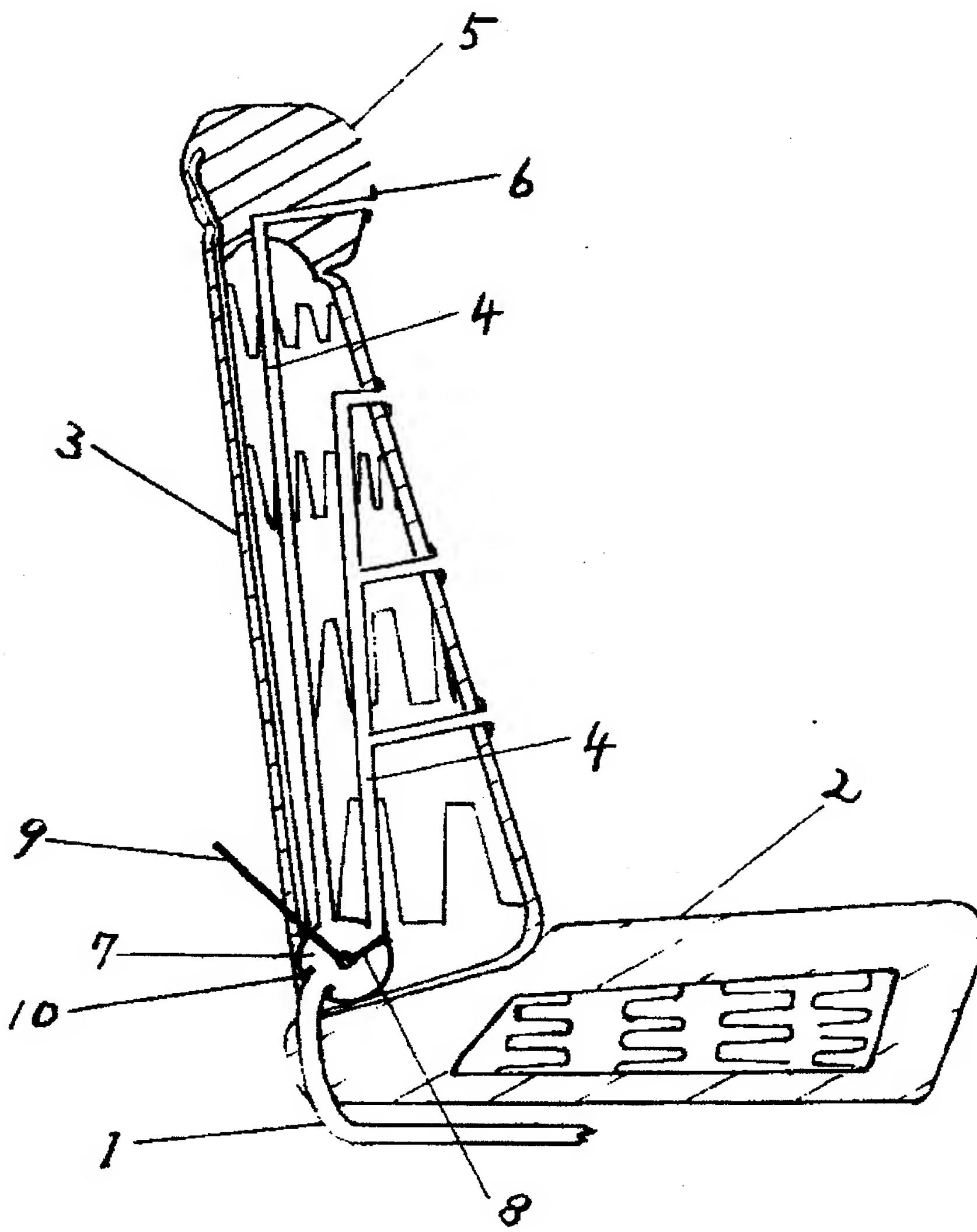
4、図面の簡単な説明

図面は本考案の侧面中央縦断面を示すものである。

1……ガイドチューブ。4……ガイドチューブより外岐せられた二本のチューブ。7……切替レバー。

实用新案登録出願人 高橋三郎

代理人弁理士 今村幸雄



99241

实用新案登録出願人 高橋三晴
代理人弁理士 今村幸雄